信濃町の埋蔵文化財

上ノ原遺跡（4次）ほか

発掘調査報告書

——尖頭器文化の遺跡——

1996

信濃町教育委員会

上ノ原遺跡（4次）ほか

発掘調査報告書

――尖頭器文化の遺跡――

1996
信濃町教育委員会

目　　次

例言
Ⅰ　調査の経過……1
　1．7年度信濃町発掘調査の概要……1
　2．調査体制……1
Ⅱ　上ノ原遺跡……1
　1．発掘の概要と経過……1
　2．発掘地の地形と地質……1
　3．遺構・遺物の出土状況……1
　4．遺物……2
　　1）旧石器時代・縄文草創期の石器……2
　　2）縄文時代の土器……2
　5．上ノ原遺跡第4次調査の成果……2
Ⅲ　町内における試掘調査……3
　1．一里塚遺跡……3
　2．裏の山遺跡……3
Ⅳ　東裏遺跡（個人住宅地点）……3
Ⅴ　上ノ原遺跡（須藤氏住宅地点）……3
Ⅵ　まとめ……4
文献……4
図版……5
報告書抄録……29

例　　言

1．本書は平成7年度の上ノ原遺跡、裏の山遺跡、一里塚遺跡など信濃町内における遺跡の発掘調査報告書である。

2．調査は、国および県から補助金交付を受けた信濃町教育委員会が、平成7年6月5日から平成8年3月19日にかけて実施した。整理作業は主に8月～3月におこなった。

3．本書は調査によって確認された遺物とその出土状況を中心に、基礎資料を提示することに重点をおいた。

4．本書作成に至る分担は、下記のとおりである。

上ノ原（4次）・裏の山・一里塚

遺物・記録の整理	高橋哲・佐藤ユミ子・今井美枝子・万場弘美
石器実測・土器拓本	佐藤ユミ子・川端結花・中村由克
図版作成・編集補助	佐藤ユミ子

上ノ原（個人住宅）・東裏遺跡

遺物・記録の整理	北村フクコ・佐藤道子・佐藤美佐江・玉井真生・村田達哉・竹川弘子
石器・土器実測	菅谷澄子・佐藤道子・渡辺哲也
図版作成	藤田桂子・佐藤美佐江
執筆　（Ⅳ・Ⅴ）	渡辺哲也
上記以外および編集	中村由克

5．調査によって得られた諸資料は、野尻湖博物館で保管している。出土資料の注記番号は、次のとおりである。

上ノ原遺跡	95ＵＨ	裏の山遺跡	95ＵＲ
上ノ原遺跡（須藤氏宅地点）	95ＵＨス	一里塚（個人住宅）	95ＩＲ

Ⅰ　調査の経過

1．7年度信濃町発掘調査の概要（図1、表1）

平成7年度、信濃町教育委員会では高速道関連の公共事業や民間事業があいついだために、埋蔵文化財の発掘調査が多く実施された。本年度は、4月当初から2班体制で、4月から12月まで現場調査が実施され、引き続き3月まで整理作業をおこなった。今年度おこなった主な発掘作業は、表1のとおりである。

この内、上ノ原遺跡、裏の山遺跡（試掘調査）、上ノ原遺跡、東裏遺跡、一里塚遺跡（個人住宅）などは、国と県から補助金交付をうけたものである。

2．調査体制

上ノ原遺跡等の発掘調査は、信濃町教育委員会の直営事業として実施し、組織は以下のとおりである。

調査主体者　信濃町教育委員会
　　教育長　　片山幹威
事務局　　総務教育課　課長　若月英雄
　　係長　松木武夫　　担当　高橋　哲

＜上ノ原・裏の山・一里塚遺跡＞

調査担当者　中村由克
担当職員　高橋　哲
調査参加者　池田か己子、梅木ちかえ、大久保孝子、小日向キヨ子、大久保孝則、木下浩一、木下絹栄、小林孝子、小林正義、駒村幸男、佐藤ユキ子、佐藤儀信、渋沢ユキ子、関口薫、中村貞子、中村フサ子、藤原伊久栄、松岡さとみ、
今井美枝子、佐藤ユミ子、万場弘美、井沢キヨエ

＜吹野原A遺跡＞

調査担当者　渡辺哲也
調査参加者
東裏遺跡（中村氏宅地点）：玉井真生、中村正枝、中村リウ子、丸山那津子、若月ケサノ
東裏遺跡（風間氏宅地点）：小日向キヨ、加納ゆづる、小林ヨシエ、斎内真喜子、関塚恒、中村正枝、中村リウ子、丸山那津子、若月ケサノ
上ノ原遺跡（須藤氏宅地点）：　荒井時子、石田尋子、小日向キヨ、加納ゆづる、関塚恒、滝野一男、玉井真生、森浩美、若月ケサノ

Ⅱ　上ノ原遺跡

1．発掘の概要と経過（図1、図2）

上ノ原遺跡は信濃町大字柏原字上ノ原、岡実に所在する。上ノ原遺跡は昭和62年の柏原町区誌の遺跡分布調査で発見された。最初に確認されたのは、今回の調査地と町道をはさんだ南側の農地であった。

今回の調査は、住宅兼店舗の改修工事に際して、用地内に遺構・遺物が分布するかどうかを確認し、その記録保存をはかることであった。調査は、平成7年6月5日に着手し、8月17日まで継続した。上ノ原遺跡では、平成2年の北部高校信濃町分校跡地（第1次）、平成5年の町道建設（第2次）、そして平成7年の消防署建設（第3次）などの発掘調査が実施されていたので、今回の調査を第4次とした。なお、調査グリッドは5mを基本としている。

2．発掘地の地形と地質（図3、図4）

発掘地は、国道18号線に沿った丘陵地にある。調査地は、標高707.5m付近にあり、西向きの緩斜面となっている。この付近から貫ノ木にかけては、おもに国道沿いに長野県側から日本海側へぬけるルートの中では、標高が最高地点にあたる。地形は高原状の平坦地であるが、発掘地より南西側では上越市に流れる関川水系に属し、北東側では新潟市および寺泊町に流れる千曲川－信濃川水系に属し、この分水嶺となっている。

この丘陵は池尻川泥流が地下にあり、その上を水成の貫ノ木層、風成の神山ローム層、野尻ローム層などの後期更新世の地層が被い、さらに地表付近には真っ黒な色が特徴の柏原黒色火山灰層が被っている。発掘地では、上部野尻ローム層Ⅰから上の地層を確認した。

3．遺構・遺物の出土状況（図5、図6、表2、表3）

調査地は国道18号線と町道の交差点の北西側の場所である。既存の建物があった北側の地点は、試掘をおこなったところ、遺構・遺物の存在は確認されなかった。旧建物の南側で、町道との間の農地が新しく工事されることになり、この地点では多くの石器などが出始めたので、約500m²を発掘調査した。遺物は調査地のほぼ全体から出土した。石器が多く、わずかに縄文時代の土器も出土した。

石器はF4・5、G4・5グリッドの境界付近、E6・F6グリッド、そしてC8グリッド付近などに多く出土した。これらの遺物は、旧石器時代から縄文時代草創期にわ

たるものであったが、石器集中部と石器群との対応が必ずしも鮮明でないので、これらの分布が本来のブロックがそのままの状態であらわれたのでなく、斜面地の上を多少なりとも再移動したものが含まれていると思われる。

F5グリッドの上Ⅱ上部からは、礫群が1基検出された。握りこぶし大の亜円～亜角礫14点ほどが疎らに集まったものである。

4．遺　物

1）旧石器時代・縄文草創期の石器

（図7－図11、表4）

石器類は全部で354点出土した。縄文時代草創期を主体とする尖頭器石器群、後期旧石器時代のナイフ形石器の石器群が認められる。

ナイフ形石器文化の石器

ナイフ形石器：27は無斑晶質安山岩製の二側縁調整のナイフ形石器である。やや幅広の縦長剥片を素材としている。

スクレイパー：珪質凝灰岩製の30、砂岩製の34は石刃を素材とするサイド・スクレイパーである。

彫器：珪質凝灰岩製の31は、石刃を素材とする彫器である。石刃の末端側に調整が加えられている。

石刃：32、33は無斑晶質安山岩製の石刃である。36、37、39、40、41などの縦長剥片も同一の石器群になると思われる。

尖頭器：28は横長の剥片を素材に粗い調整で仕上げられた尖頭器である。素材剥片の形からの制約で、全体に湾曲した形態である。

29は小形の石刃を素材として、両面の周縁のみに加工が施された尖頭器である。

瀬戸内系石器群

横長剥片：42～49は、無斑晶質安山岩製の横長剥片である。完形品は伴わなかったが、横剥ぎの石器群に属すものである。

尖頭器石器群

細身の尖頭器：1、2、4、7などは両面にていねいな調整が加えられた細身の尖頭器である。1は珪質頁岩製で、成形途上で剥離が失敗して折損したものである。4は薄手のものである。

尖頭器：無斑晶質安山岩製の5、8～22、珪質頁岩製の6、珪質凝灰岩製の23は、両面にていねいな調整が加えられた尖頭器である。完形品は少なく、折損品や未成品が多い。

有茎尖頭器：3は小形の有茎尖頭器である。長さに対して幅が広いタイプである。

スクレイパー：24～26は無斑晶質安山岩製で、幅広の剥片の一端に刃部がつくられたスクレイパーである。素材剥片の形状や加工の仕方から尖頭器石器群に伴うものと判断される。

2）縄文時代の土器（図12、表5）

縄文時代早期前半の押型文土器、縄文土器など20点が出土した。押型文土器は格子目文と平行線文である。縄文土器は単節の縄文で、胎土の様子からは押型文土器に伴うものと推定される。

5．上ノ原遺跡第4次調査の成果（図13）

上ノ原遺跡（4次）では、2ないし3グループの石器群が確認された。旧石器時代のナイフ形石器の石器群、瀬戸内系石器群、縄文草創期尖頭器石器群である。尖頭器石器群には、通常のタイプのものと細身の形態のものが存在する。石器は完形品がきわめて少なく、折損品や未成品が多い。これに組成する石器はスクレイパーである。細身の尖頭器は縄文時代草創期に特有のものである。有茎尖頭器、尖頭器、スクレイパーという組成である。

ナイフ形石器は石刃を素材とする石器群である。2点出土した尖頭器も、この中に組成されるものと思われる。

Ⅲ　町内における試掘調査

1．一里塚遺跡（中村氏住宅地点）（図14）

信濃町大字古間字一里塚で住宅建設に先立ち、発掘調査を実施した。調査は平成７年７月７日から７月22日までおこなった。調査地には上部野尻湖層相当の古間層上部の砂質シルト層などが堆積しており、その上を耕土が被っていた。耕土は20cm ～30cmほどと薄く、柏原黒色火山灰層などは削られて削平されていた。耕土から須恵器と近世以降の陶磁器４点が出土したが、それ以前の遺物は出土しなかった。

なお、この畑地では平成２年に中村由克により有茎尖頭器１点が耕作中に採集されていた。無斑晶質安山岩製で、長さ27.6mm、幅13.0mm、厚さ3.8mmという小形のものである。今回の発掘では、有茎尖頭器の包含層は存在せず確認できなかった。近くに縄文時代草創期の文化層があるものと推定される。

2．裏の山遺跡（図15）

信濃町大字柏原字裏の山でスキー場開発がおこなわれることになり、予定地内の遺跡の分布の有無を確認するために試掘調査をおこなった。伊勢見山からつづく裏の山の山体部からは出土品はなかった。ふもとの平坦地のトイレ予定地の試掘では、６点の出土品があった。無斑晶質安山岩製の剥片５点と土師器１点であった。他に土師器１点が表採された。

Ⅳ　東裏遺跡（個人住宅地点）（図16－図19）

1．東裏遺跡（中村氏宅地点）

県道信濃信州新線の建設のために東裏遺跡内で住宅を移転することになった（図16、17）。事業は既存の建物を解体した後、そこに一部重複して既存の建物よりも東側に新築するというもので、調査は重複しない箇所についておこなった。

８月７日から９日まで、およそ27m²の範囲を調査した。最初に重機により表土を除去した後、手掘りで掘り下げた。約90cmを掘り下げたが、縄文時代以降の黒褐色土（柏原黒色火山灰層）から遺構、遺物は検出できなかった。また、その下には暗黄褐色粘質土が分布しており、旧石器時代の包含層である風成のローム層が分布していないことが確認できた（図17）ので、調査を終了した。このような結果から、これ以上の調査は必要ないと判断した。

2．東裏遺跡（風間氏宅地点）

東裏遺跡内で住宅建設が計画された（図16、図19）。住宅建設地に接する町道を新設する際に発掘調査が実施されていて、平安時代の遺物が散布することが確認されていたことから、建物の基礎工事部分および浄化槽設置部分について事前に調査が必要と判断し、事業主の協力を得て８月23日から８月28日まで実施した。

図18のＡ～Ｄのように、建物の基礎部分は40cm程度、Ｅのように浄化槽建設部分は85cm程度手掘りで発掘をおこなった。その結果、一括で取り上げた遺物が19点、地層中から出土した遺物は３点で、いずれも図化に耐えられない土器の小片が大半であった。小片のため時期の限定は難しいが、古代の土師器片10点、縄文土器片が３点出土した。遺構は検出できず、遺物の出土は散漫で小片であることから、遺跡の密度は低いと判断し、調査を終了した。

Ⅴ　上ノ原遺跡（図20－図24、表６）

1．調査の概要と経過

県道信濃信州新線の建設により住宅を移転する必要が生じ、上ノ原遺跡内に個人住宅を新たに建設することになった（図20、図21）。当該地は上信越自動車道に近接しており、上信越自動車道建設に先立っておこなわれた発掘調査では旧石器時代を中心に多数の遺物が出土していることから、当該地も同様に遺跡が広がっていることが予想された。開発地の地形は北西が高く、南東へ緩やかに下っているため、敷地を囲うための擁壁を建設することになった。擁壁の建設地についてはトレンチを７箇所設置し、遺物が出土したトレンチについて拡張をおこなった（トレンチ２～８）。また、住宅を建設する地点は盛土をする事になったため、住宅建設地については浄化槽設置部分だけを調査することにした（トレンチ１）。

調査は８月７日から実施し、最初に重機による表土の除去をおこなった。途中、造成の設計が決定しなかったため中断し、９月４日から再開した。トレンチを設定し、手掘りで掘り下げ、９月29日に完了した。

2．層序と遺物の出土状況

調査地の地質層序は図23のとおりで、野尻湖周辺の風成の地質層序と同様である。層序と文化層については野尻湖人類考古グループによる詳しい記述かあるので参照されたい（野尻湖人考古グループ、1994）。野尻

湖周辺の層序にしたがえばVaの上Ⅱ最下部層にATと考えられる［ヌカⅠ］火山灰がふくまれているとされている。遺物は47点出土した。内訳はトレンチ1が2点。トレンチ4が2点。トレンチ6が14点、トレンチ7が28点、トレンチ8が1点であった。トレンチ6と7でVa、Vb層を中心に遺物がまとまって出土しており、今調査地ではAT下位の石器群を検出したことになる。トゥールの構成はナイフ形石器と楔形石器となっている。

3．遺　物

1、2はナイフ形石器である。1は素材の剥片を横位に用い、両側縁に腹面からの急角度のブランティングを施して基部を作出している。台形様石器の範疇に入れることが可能な資料である。2は素材の剥片を横位に用い、素材の腹面側を背面にして右側縁の全体と左側縁の基部の一部に二次加工が施されている。3、4は楔形石器である。共に上下両端に微細な剥離痕が残る。5は二次加工のある剥片で、自然面打面が残る剥片の腹面に平坦剥離による二次加工が施されている。6は単剥離面打面が残るスポールで、剥離角は105度である。7～13は剥片である。7は単剥離面打面が残り、剥離角は107度である。右側縁に刃こぼれ状の微細な剥離痕が残る。8は自然面打面が残り、剥離角は105度である。9は単剥離面打面を残し、打面側の左側縁に微細な剥離痕が残る。10は複剥離面打面が残り、剥離角は115度である。背面に礫面を残す。11は単剥離面打面を残し、剥離角は121度である。12は単剥離面打面を残し、剥離角は116度である。13は単剥離面打面を残し、剥離角は121度である。背面がポジティヴな面となっている。14～16は石核である。14は単剥離面打面から剥離角121度で縦長剥片を剥離した痕跡が残る。15は単剥離面打面と自然面打面から剥離した痕跡を残す。剥離角は107度である。16は自然面打面から101度で剥離した痕跡が残る。

4．ま と め

個人住宅建設に先立って発掘調査を実施し、後期旧石器時代前半の石器群を検出した。野尻湖遺跡群では貫ノ木遺跡（金氏住宅地点）で同様の地層から同形態のナイフ形石器が出土している（信濃町教育委員会　1995)。よって本遺跡の石器群の位置づけは、南関東のⅦ層段階およびそれよりもやや下位に対比しておきたい。

Ⅴ　ま と め

平成7年度の信濃町内の遺跡発掘では、以下のような成果があった。

1）上ノ原遺跡（4次）では、縄文草創期の尖頭器石器群がまとまって出土した。遺物数の割には、製品が多いのが特徴であるが、未成品や折損品がほとんどである。

2）上ノ原遺跡（4次）では、このほかナイフ形石器の石器群や横長剥片の石器群がわずかながら出土した。

3）上ノ原遺跡（須藤氏宅地点）では、後期旧石器時代前半のナイフ形石器や楔形石器などの石器群が出土した。

4）一里塚遺跡、裏の山遺跡、東裏遺跡では、発掘、試掘調査をおこなった。わずかに遺物が出土したが、いづれも遺構・遺物の集中地からは外れていると判断した。

文　献

信濃町教育委員会　1995　貫ノ木遺跡・日向林B遺跡（個人住宅地点）発掘調査報告書　79p

野尻湖人類考古グループ1994　野尻湖遺跡群における文化層と旧石器文化．野尻湖博物館研究報告，2. 1-16

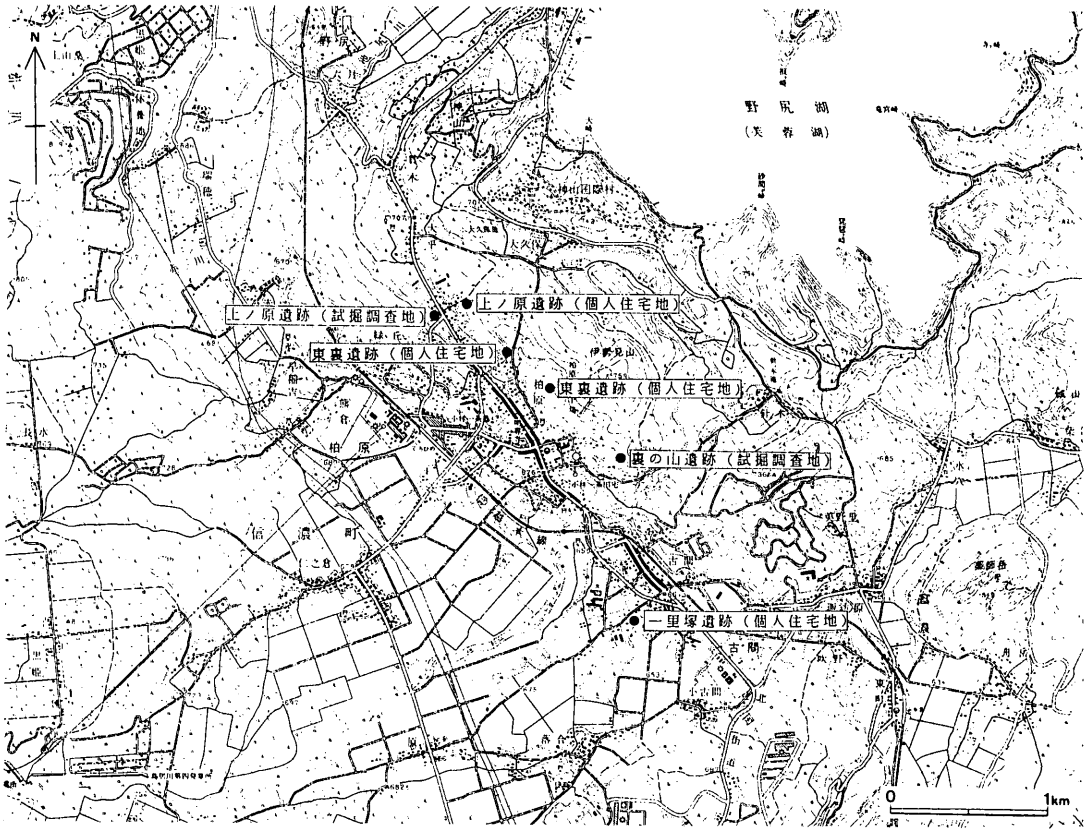


図１　平成７年度信濃町内の遺跡の調査位置

表１　平成７年度信濃町内の遺跡の発掘調査一覧

No	遺跡名	原因	遺跡の時代	面積	調査期間	出土点数	備考
1	上ノ原 (試掘)	住宅兼店舗 改築（信濃自動車）	旧石器・縄文	500㎡	6/5～8/17	513点	
2	一里塚	個人住宅	縄文・平安	66㎡	7/7～7/22	4点	遺物は少なかった。
3	裏の山 (試掘)	スキー場	旧石器・縄文	5,500㎡	8/17～9/6	6点	
4	上ノ原	個人住宅	旧石器	150㎡	8/18～9/29	47点	
5	東裏	個人住宅	平安	66㎡	8/23～8/28		
6	東裏	個人住宅		30㎡	8/9	0点	遺物なし
7	市道	新長野ゴルフクラブ 調整池	縄文		平成6年10月～ 6/27		大量の土器、石器出土
8	市道	新長野ゴルフクラブ 管理道路	縄文		平成6年 9月～10/3		
9	高山	新長野ゴルフクラブ コースなど	縄文		4月～6月		遺物は少なかった
10	清水久保	新長野ゴルフクラブ コース、池	縄文・平安		6/28～9/12		
11	長山	新長野ゴルフクラブ コース、道路	旧石器・縄文		8月終了		牟礼村教育委員会に 調査依頼
12	西岡A	帝国石油 パイプライン			6月終了	0点	遺物なし
13	貫ノ木	帝国石油 パイプライン	旧石器		6月終了		剥片出土
14	上ノ原	消防署建設	旧石器・縄文		平成6年12月～ 6月上旬		
15	上ノ原	県道信濃 信州新線	旧石器・縄文		9/6～ 平成8年度		
16	大久保南	県道信濃 信州新線	旧石器・縄文		5/25～12/6		
17	東裏	県道信濃 信州新線	平安		11月終了		
18	山根	広域農道 (工事用道路)	弥生・平安		平成6年10月～ 7/28		
19	山根	広域農道 (本線)	弥生・平安		9/21～12/6		
20	役屋敷	急傾斜崩落対策	縄文・平安 江戸		平成6年12月～ 6/19		

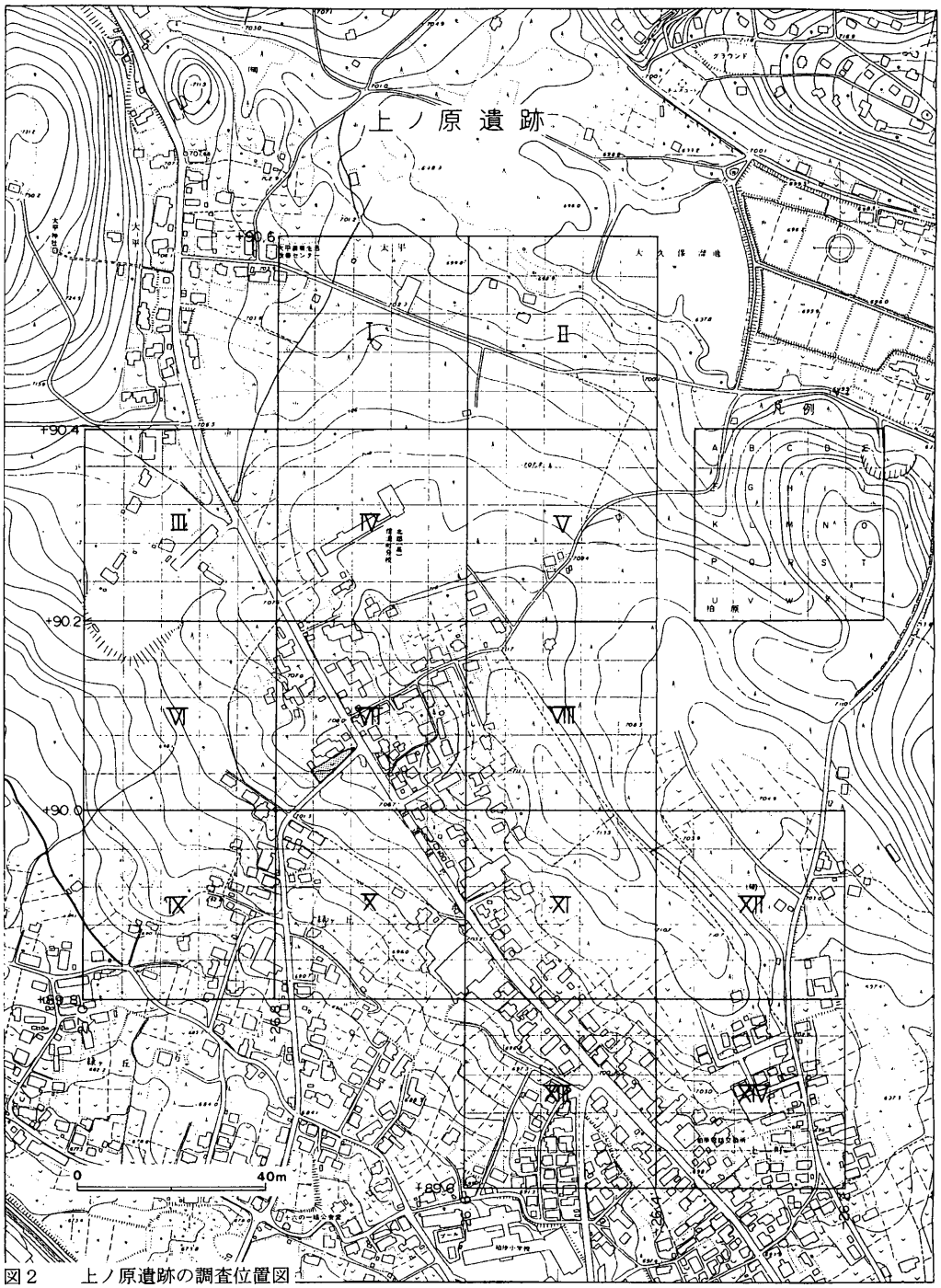
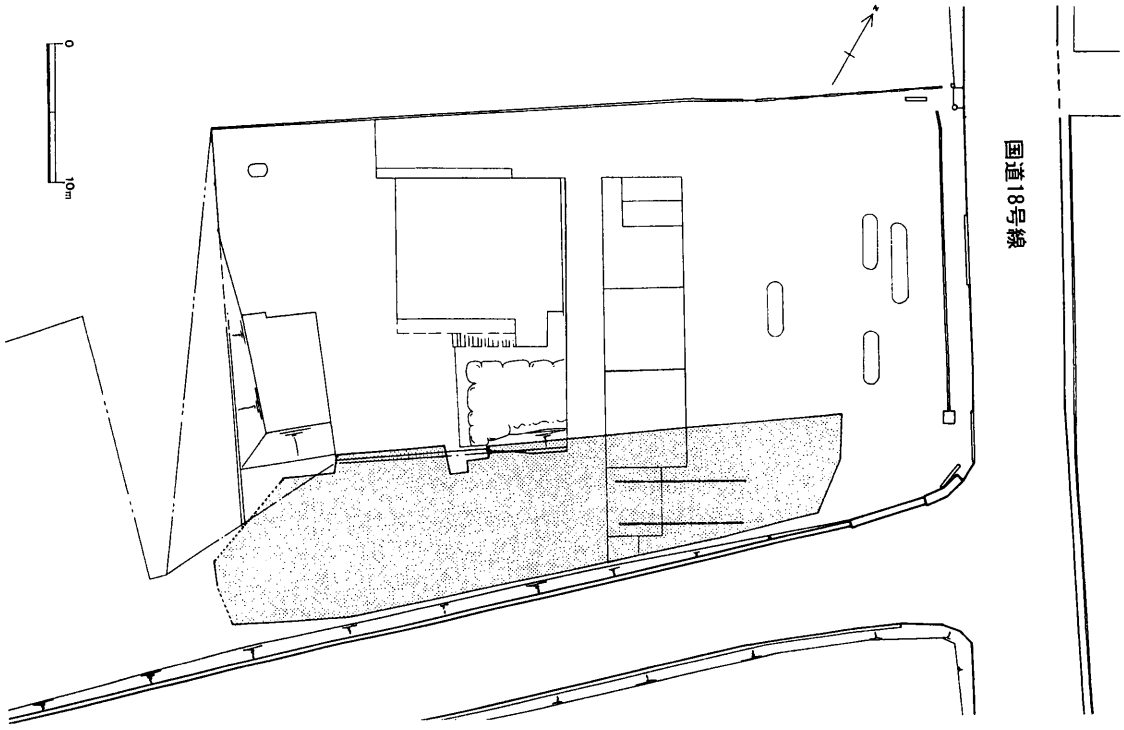


図２　上ノ原遺跡の調査位置図



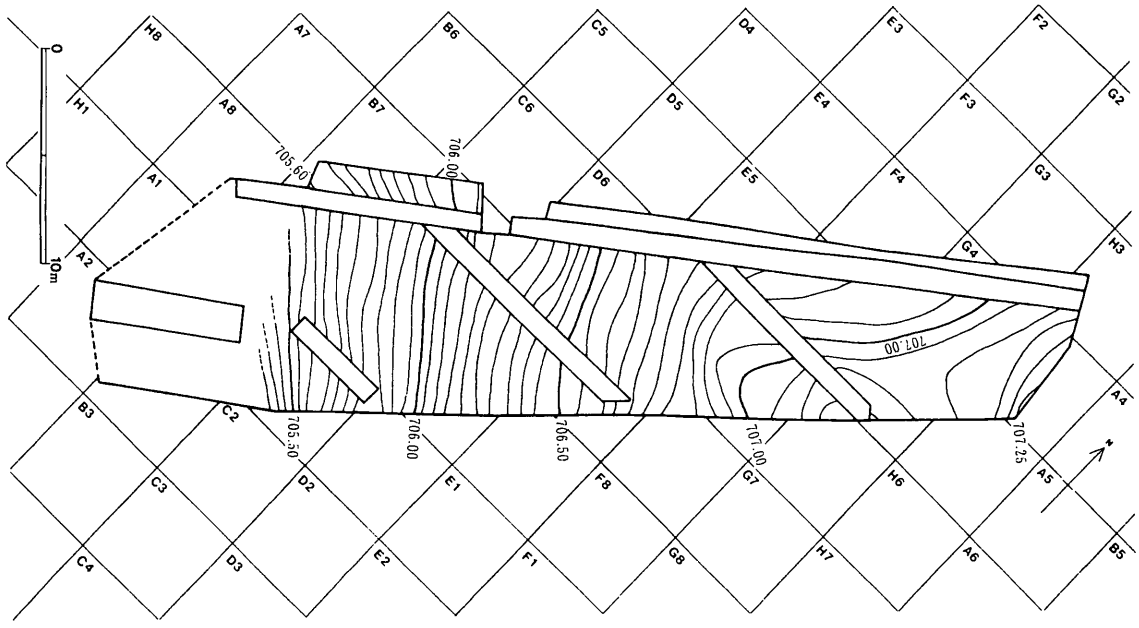


図3　上ノ原遺跡（第4次）の地形と発掘グリッド

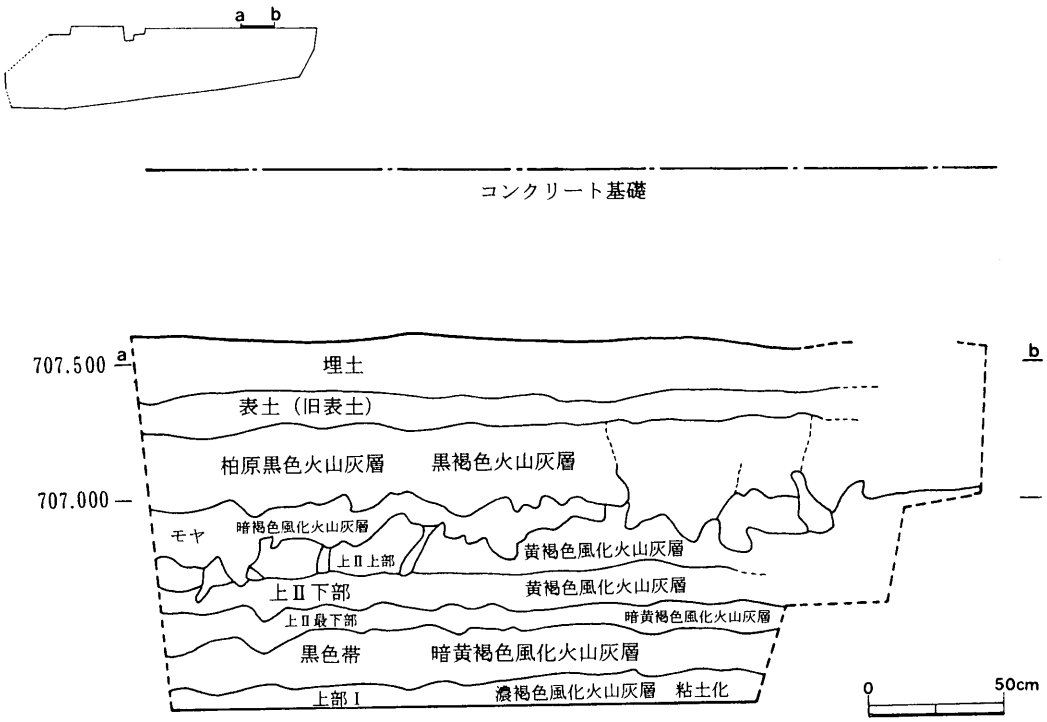


図4　上ノ原遺跡（第4次）の地層

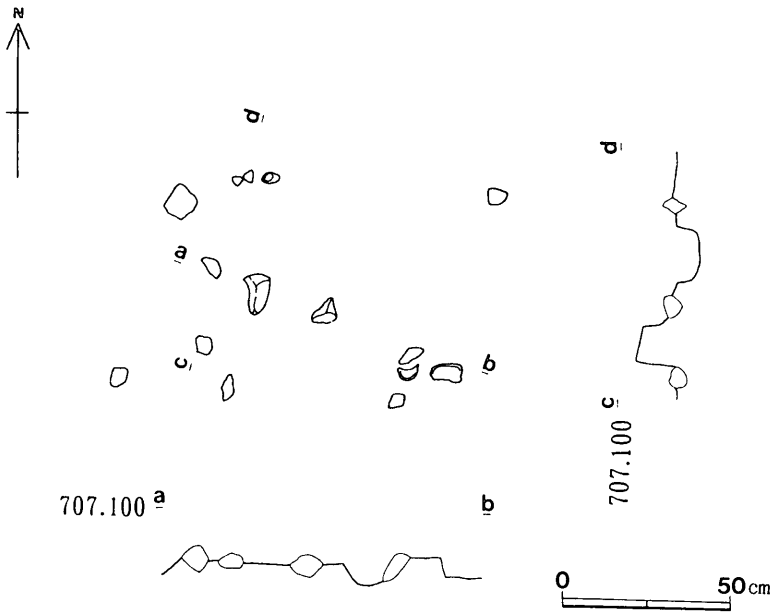


図5　旧石器時代の礫群

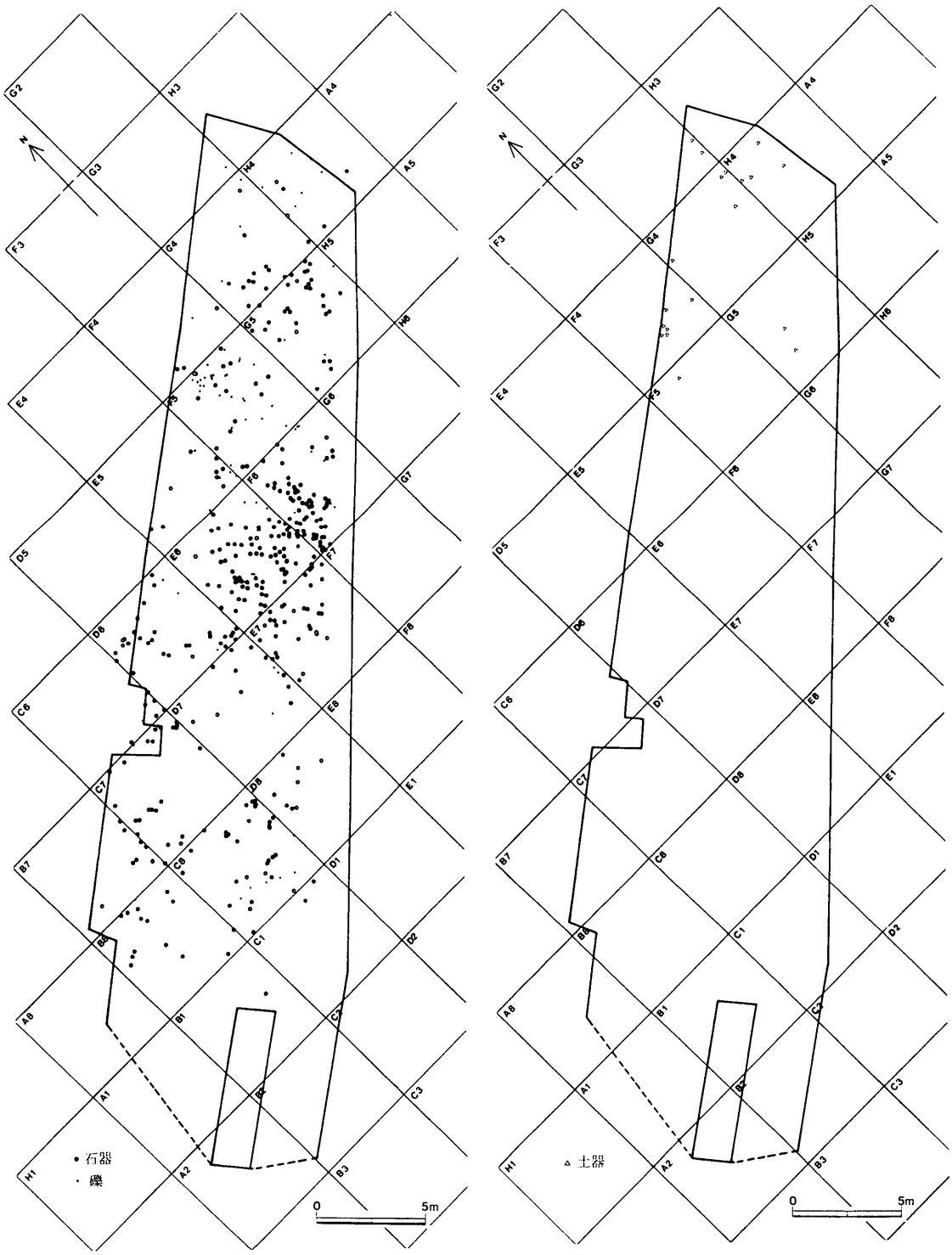


図6　遺物分布図（左）石器と礫、（右）土器

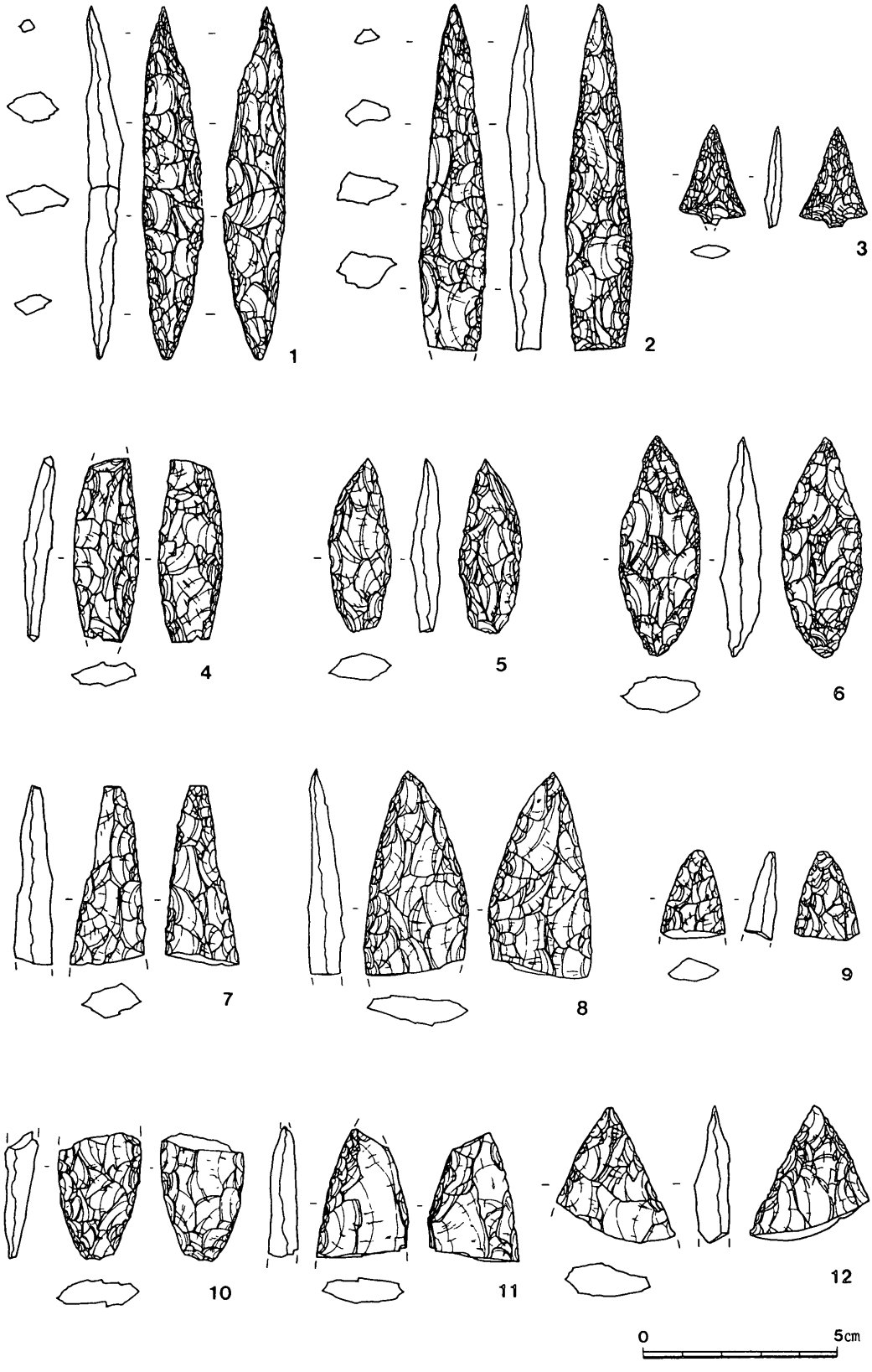


図７　上ノ原遺跡（第４次）出土の石器（１）

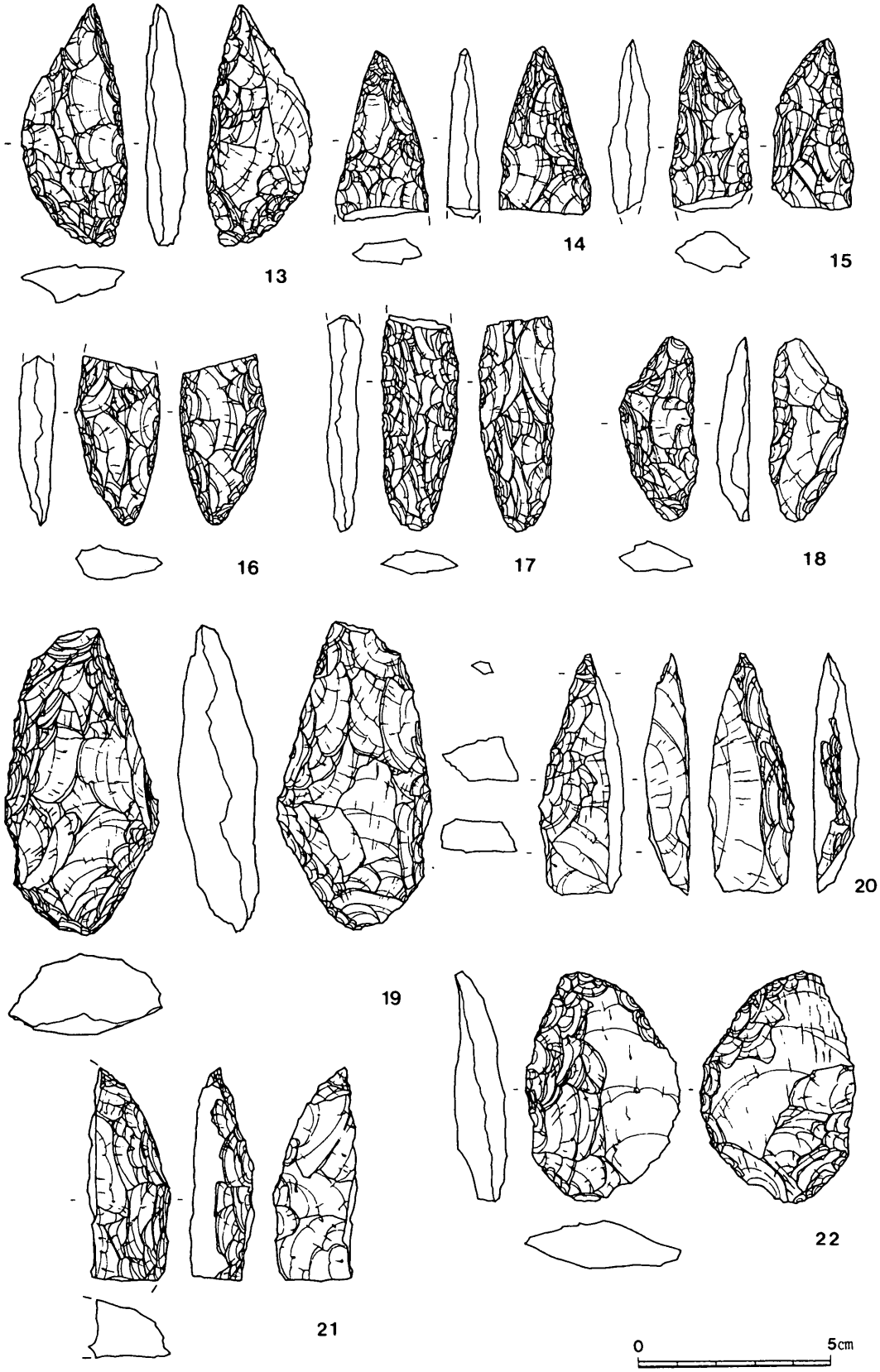


図８　上ノ原遺跡（第４次）出土の石器（２）

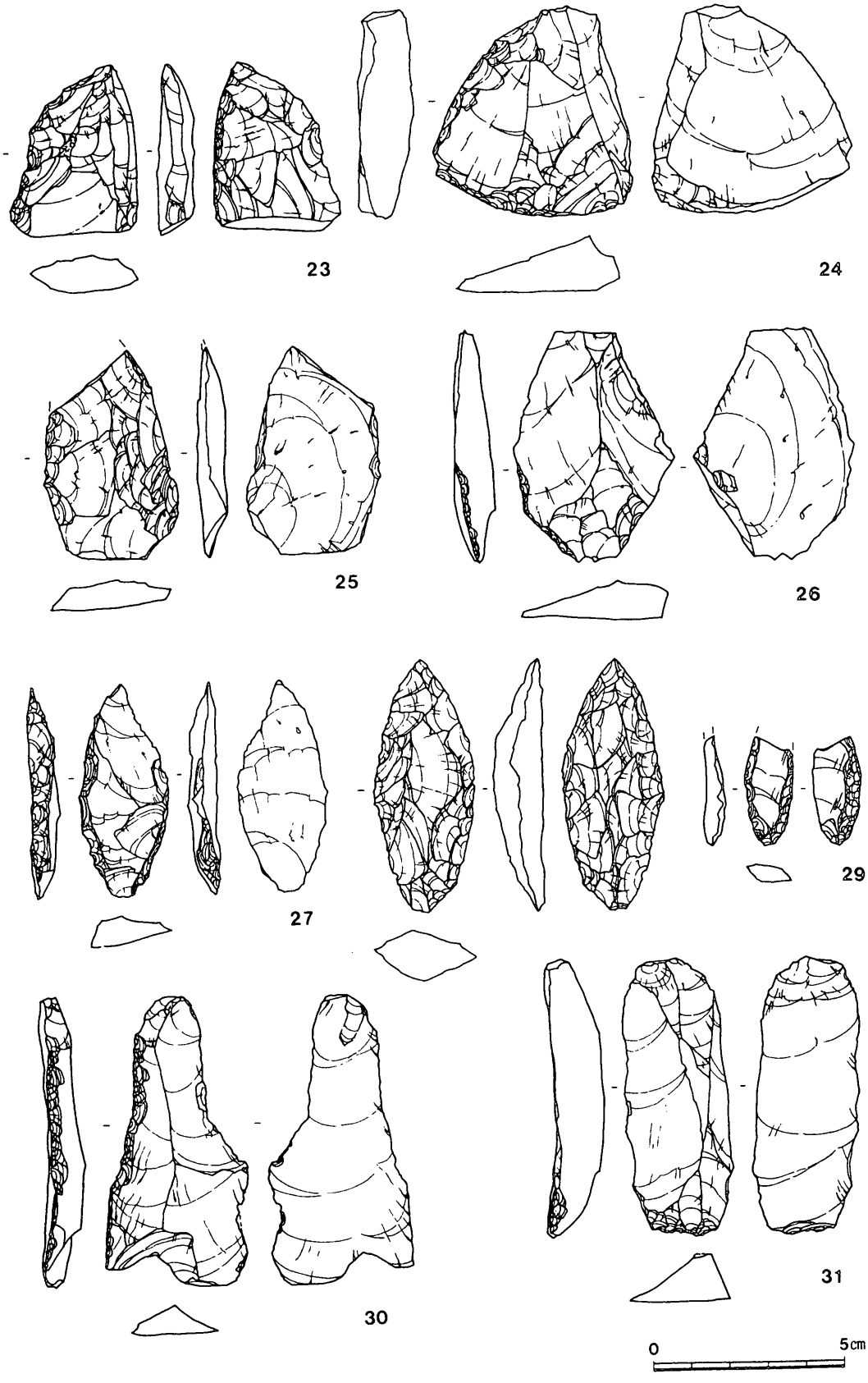


図７　上ノ原遺跡（第４次）出土の石器（３）

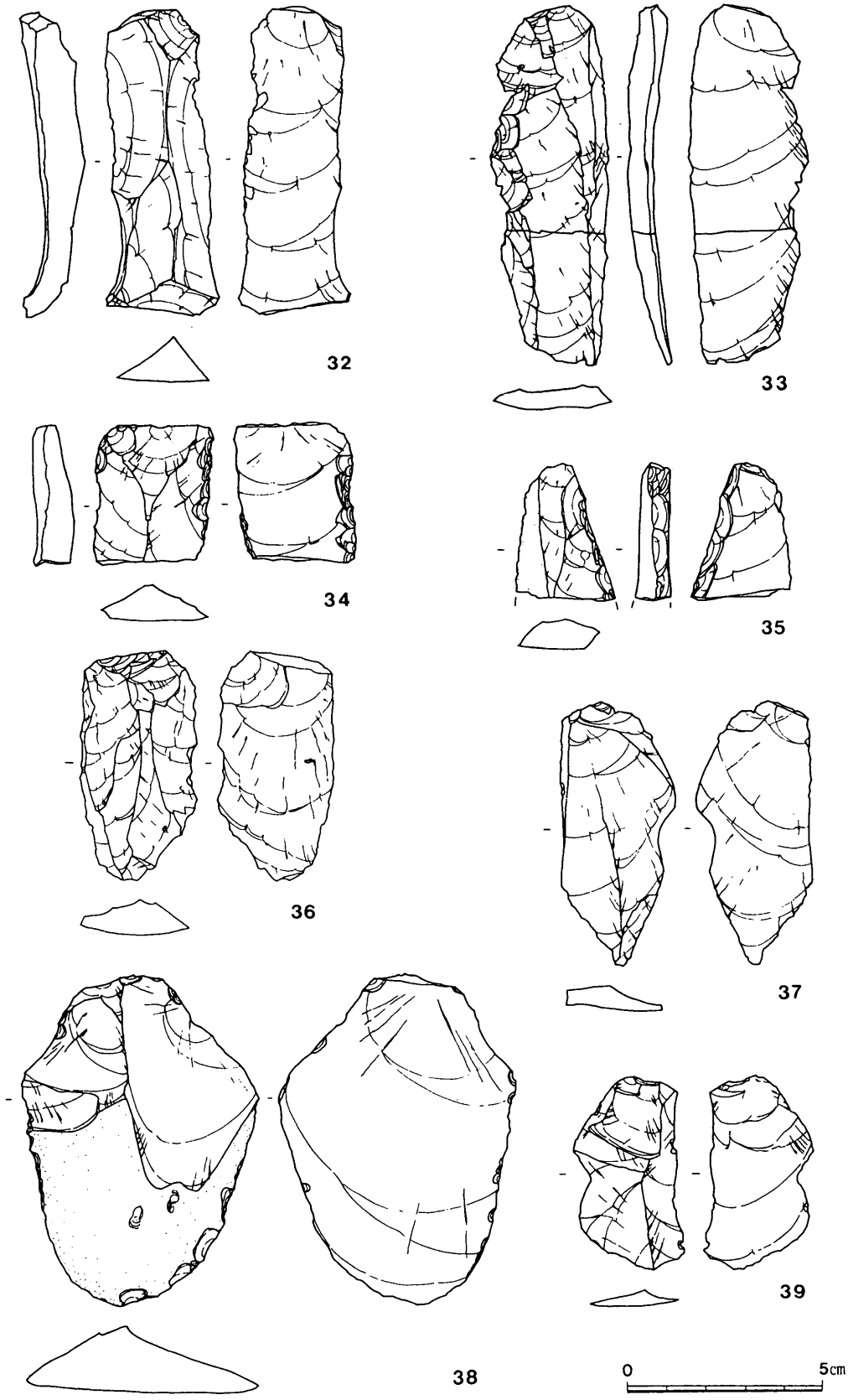


図10　上ノ原遺跡（第４次）出土の石器（４）

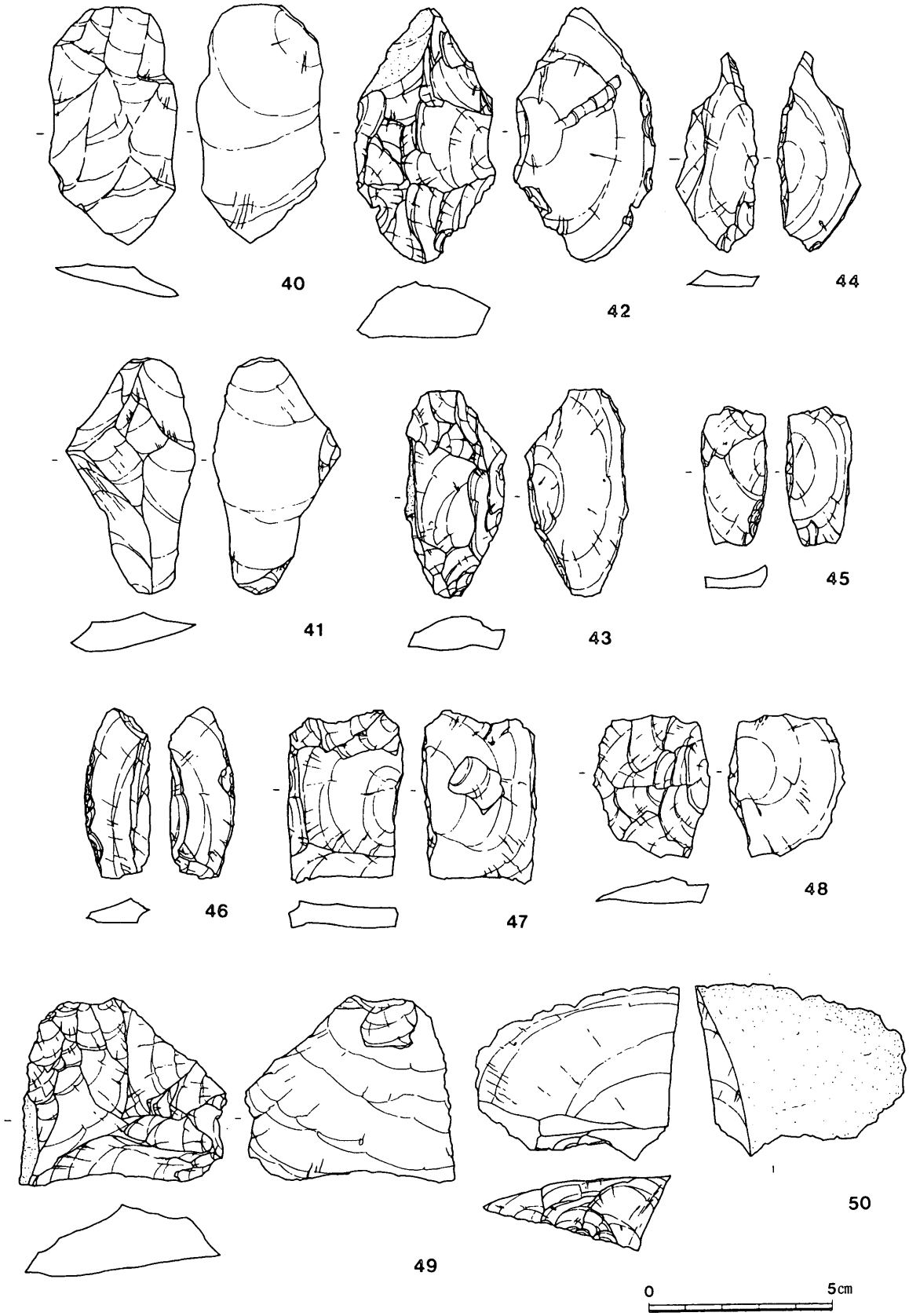


図11　上ノ原遺跡（第４次）出土の石器（５）

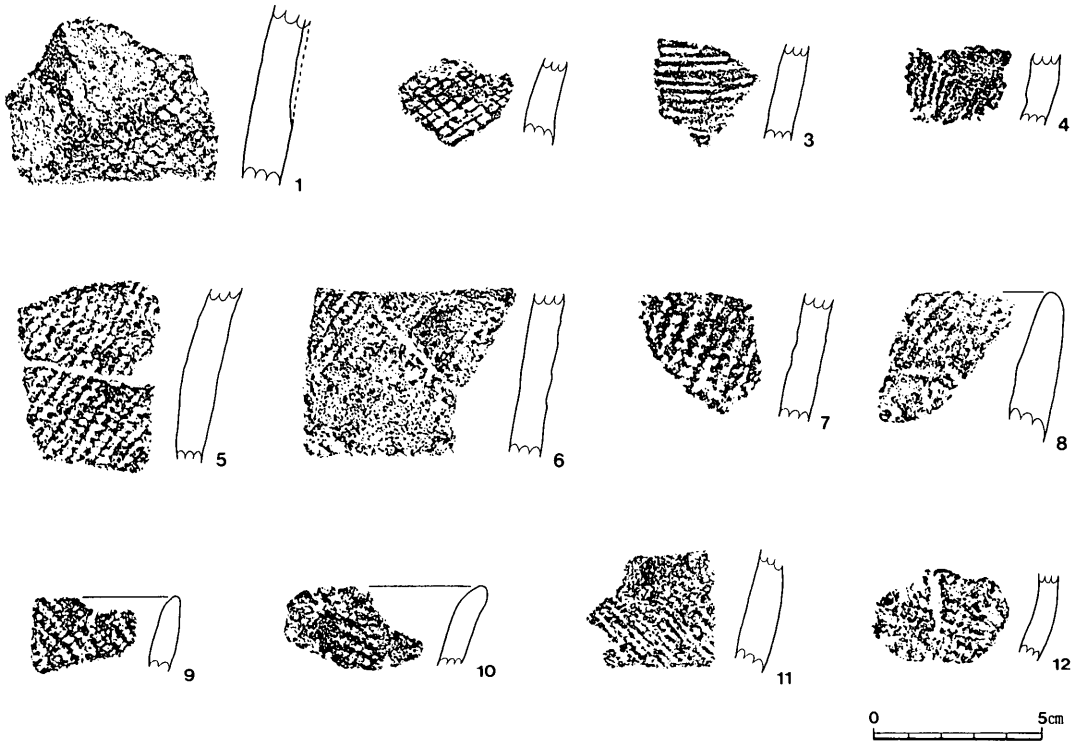


図12　上ノ原遺跡（第４次）出土の縄文土器

表２　上ノ原遺跡（第４次）のグリッド別出土遺物点数

グリッド		石器	土器	礫	その他	合計	グリッド		石器	土器	礫	その他	合計
VIIQ	B7	10		1		11		F4	3	7	1		11
	B8	12		1	2	15		F5	14	1	32	6	53
	C6	6		1		7		F6	64		8	4	76
	C7	19		1	3	23		G3		2	1		3
	C8	13		6	20	39		G4	13	4	4		21
	D6	30		3		33		G5	30	2	3		35
	D7	11		4		15		H4	4	4	8		16
	D8	5		1	3	9	VIIV	B1	1				1
	E5	8		5	2	15		C1	2		1		3
	E6	76		9	6	91							
	E7	33		1	1	35	計		354	20	91	47	512

表３　上ノ原遺跡（第４次）の出土遺物

石器	354
礫	91
土器	20
その他（石片等）	47
合計	512

表4　上ノ原遺跡（第4次）出土の石器一覧

No	名称	遺物番号	地層	石材	法量（cm, g） 長さ	幅	厚さ	重量	備考
1	尖頭器	95UHⅦQF5-47, 95UHⅦQF5-1	上Ⅱ上部上面，モヤ下部	珪質頁岩	8.9	1.5	0.9	10.9	
2	尖頭器	95UHⅦQF4-2	モヤ下部	珪質頁岩	8.7	1.7	0.9	12.1	
3	有茎尖頭器	95UHⅦQD7-3	柏原黒色火山灰層かくらん	珪質頁岩	2.5	1.6	0.3	1.2	
4	尖頭器	95UHⅦQE6-72	柏原黒色火山灰層かくらん	無斑晶質安山岩	4.6	1.6	0.7	5.4	
5	尖頭器	95UHⅦQH4-14	モヤ下部	無斑晶質安山岩	4.3	1.6	0.7	4.7	
6	尖頭器	95UHⅦQF5-27	モヤ下部	珪質頁岩	5.5	2	0.9	9.7	
7	尖頭器	95UHⅦQG5-19	モヤ下部下底	無斑晶質安山岩	4.4	1.9	0.9	6.4	
8	尖頭器	95UHⅦQE6-3	モヤ下部	無斑晶質安山岩	5.1	2.6	0.9	11.6	
9	尖頭器	96UHⅦQF6-1	モヤ上部	無斑晶質安山岩	2.2	1.6	0.7	2.2	
10	尖頭器	95UHⅦQE6-5	上Ⅱ上部上面	無斑晶質安山岩	3.1	2.1	0.7	4.8	
11	尖頭器	95UHⅦQE6-87	上Ⅱ上部かくらん	無斑晶質安山岩	3.2	2.4	0.7	6	
12	尖頭器	95UHⅦQF6-29	モヤ下部	無斑晶質安山岩	3.3	3.1	0.8	6.3	
13	尖頭器	95UHⅦQF6-13	モヤ下部	無斑晶質安山岩	6.1	2.6	1	15.6	
14	尖頭器	95UHⅦQE5-10	柏原黒色火山灰層	無斑晶質安山岩	4.2	2.5	0.8	7.7	
15	尖頭器	95UHⅦQF6-65	上Ⅱ上部	無斑晶質安山岩	4.3	2	1.1	7.4	
16	尖頭器	95UHⅦQC6-4	モヤ下部	無斑晶質安山岩	4.3	2.2	1	8.7	
17	尖頭器	95UHⅦQD6-30	モヤ下部	無斑晶質安山岩	5.5	1.9	0.8	9.8	
18	尖頭器	95UHⅦQD6-28	モヤ下部	無斑晶質安山岩	4.7	1.9	0.8	7.4	
19	尖頭器	95UHⅦQD6-17	モヤ上部	無斑晶質安山岩	7.9	3.8	2	60.5	
20	尖頭器	95UHⅦQC7-2	モヤ下部上面	無斑晶質安山岩	6.2	2.2	1.2	15.8	
21	尖頭器	95UHⅦQE6-46	モヤ上部	無斑晶質安山岩	5.5	2.1	1.5	18.7	
22	尖頭器	95UHⅦQC8-39	モヤ下部	無斑晶質安山岩	5.9	3.8	1.4	30.6	
23	尖頭器	95UHⅦQE5-12	モヤ上部	珪質凝灰岩	4.2	3.2	1	16.3	
24	スクレイパー	95UHⅦQC7-7	モヤ下部上面	無斑晶質安山岩	5.2	5.4	1.4	39.5	
25	スクレイパー	95UHⅦQE6-17	モヤ上部	無斑晶質安山岩	5.4	3.5	0.7	12.9	
26	スクレイパー	95UHⅦQF6-2	モヤ上部かくらん	無斑晶質安山岩	5.9	4.1	1.1	20.4	
27	ナイフ形石器	95UHⅦQF5-19	上Ⅱ上部	無斑晶質安山岩	5.5	2.4	0.6	8.2	
28	尖頭器	95UHⅦQC6-7	モヤ下部	無斑晶質安山岩	6.5	2.7	1.2	18.4	
29	尖頭器	95UHⅦQF6-63	上Ⅱ上部上面	珪質頁岩	2.8	1.2	0.5	1.7	
30	スクレイパー	95UHⅦQF5-16	モヤ上部	珪質凝灰岩	7.5	3.7	0.9	19.5	
31	彫器	95UHⅦ表採	表土	珪質凝灰岩	7.3	2.7	1.2	22.4	
32	石刃	95UHⅦQC6-3	モヤ上部	無斑晶質安山岩	7.6	2.5	1.2	25.4	
33	石刃	95UHⅦQE7-5	上Ⅱ上部上面	無斑晶質安山岩	8.9	3	0.7	19.3	
34	スクレイパー	96UHⅦB8-4	モヤ上部	砂岩	3.5	2.9	1	13.8	
35	剥片	95UHⅦQE6-83	モヤ下部	無斑晶質安山岩	3.4	2.6	0.9	7.5	
36	剥片	96UHⅦQE6-91	上Ⅱ上部	無斑晶質安山岩	5.9	2.9	1.2	18.7	
37	剥片	96UHⅦQC6-2	モヤ上部	珪質頁岩	6.8	2.9	0.6	12.3	
38	剥片	96UHⅦQF5-49	上Ⅱ上部	無斑晶質安山岩	8.5	6.1	1.7	62.6	
39	剥片	96UHⅦQF5-18	上Ⅱ上部	珪質頁岩	5	2.6	0.4	4.5	
40	剥片	96UHⅦQF5-53	上Ⅱ上部	珪質頁岩	6.4	3.4	0.6	15.8	
41	剥片	96UHⅦQF4-3	上Ⅱ上部	珪質頁岩	6.3	3.6	0.8	15.4	
42	剥片	96UHⅦQC6-1	モヤ上部	無斑晶質安山岩	6.9	3.7	1.6	36.5	
43	剥片	96UHⅦQF6-11	モヤ下部	無斑晶質安山岩	5.6	2.6	0.8	13.6	
44	剥片	96UHⅦQC7-4	モヤ下部上面	無斑晶質安山岩	5.4	2.2	0.4	3.9	
45	剥片	96UHⅦQF6-27	モヤ下部	無斑晶質安山岩	3.7	18	0.6	3.7	横長剥片
46	剥片	96UHⅦQE6-52	モヤ下部	無斑晶質安山岩	4.6	1.7	0.6	5.8	ｽｸﾚｲﾊﾟｰ?
47	剥片	96UHⅦQF6-20	モヤ下部	無斑晶質安山岩	4.6	3.1	0.8	15.3	
48	剥片	96UHⅦQF6-69	上Ⅱ上部	無斑晶質安山岩	3.8	3.2	0.7	7.5	
49	剥片	96UHⅦQC7-23	モヤ下部	無斑晶質安山岩	5	5.6	1.8	45	
50	石核	96UHⅦQF4-4	上Ⅱ上部	無斑晶質安山岩	5.1	5.2	1.9	39.4	横長剥片剥離

表5　上ノ原遺跡（第4次）出土の土器一覧

No	時期	文様	文様要素	繊維	遺物番号	備考
1	早期	押型文土器	格子目文	なし	95UHⅦQG3-2	
2	早期	押型文土器	格子目文	なし	95UHⅦQG4-13	
3	早期	押型文土器	平行線文	なし	95UHⅦQH4-6	
4	早期	押型文土器?	平行線文?	なし	95UHⅦQH4-9	
5	早期	縄文土器	単節	なし	95UHⅦQG3-3	
6	早期	縄文土器	単節	なし	95UHⅦQF4-9, 11	
7	早期	縄文土器	単節	なし	95UHⅦQF4-8	
8	早期	縄文土器	単節	なし	95UHⅦQG4-15	底部付近
9	早期	縄文土器	単節	なし	95UHⅦQG4-4	口縁部
10	早期	縄文土器	単節	なし	95UHⅦQH4-7	口縁部
11	早期	縄文土器	単節	なし	95UHⅦQG4-3	
12	早期	縄文土器	単節	なし	95UHⅦQG5-18	

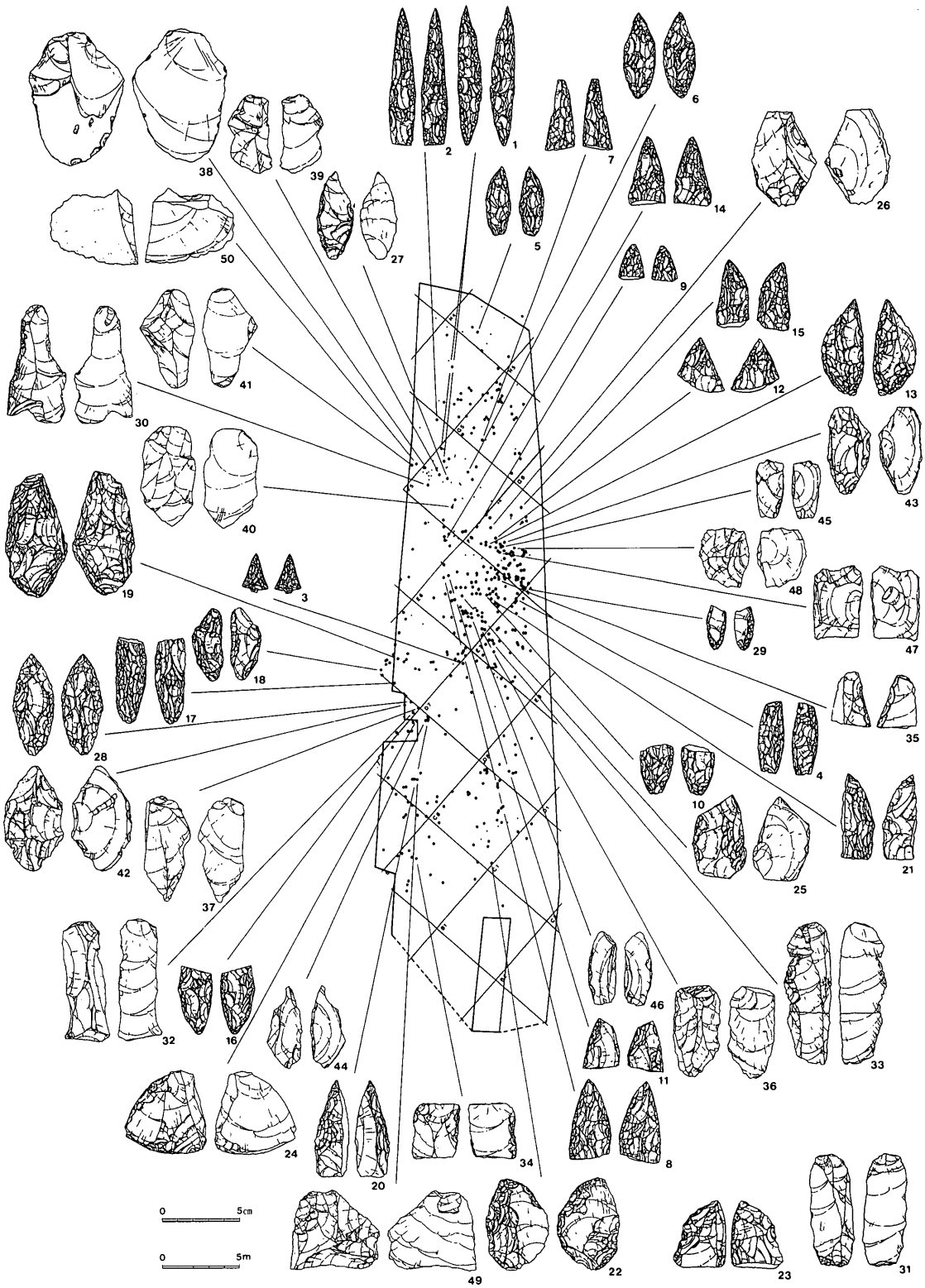
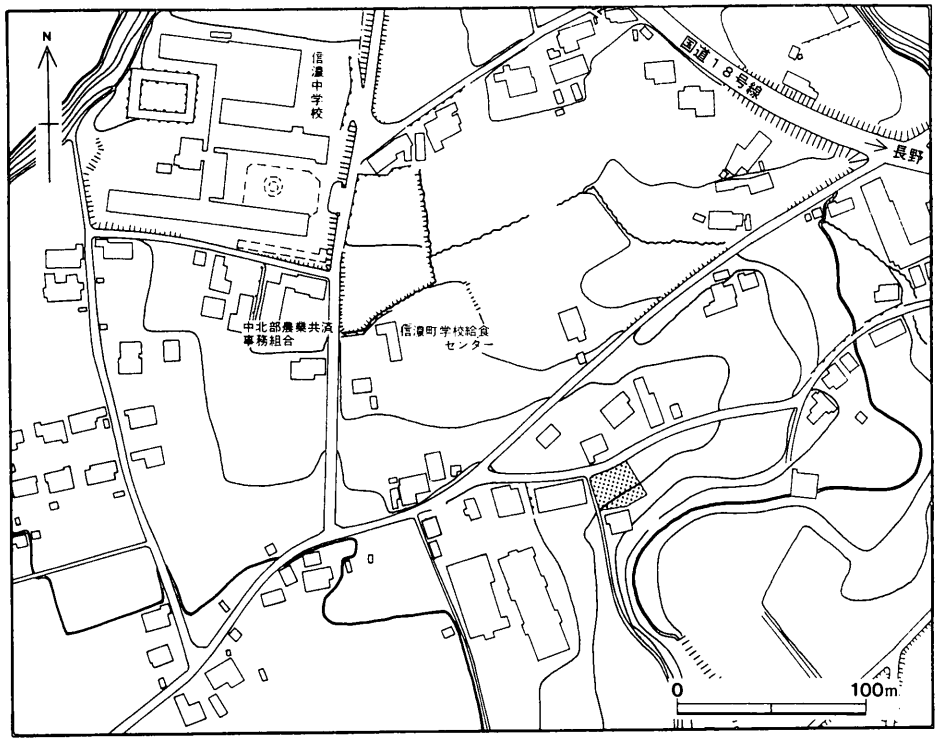
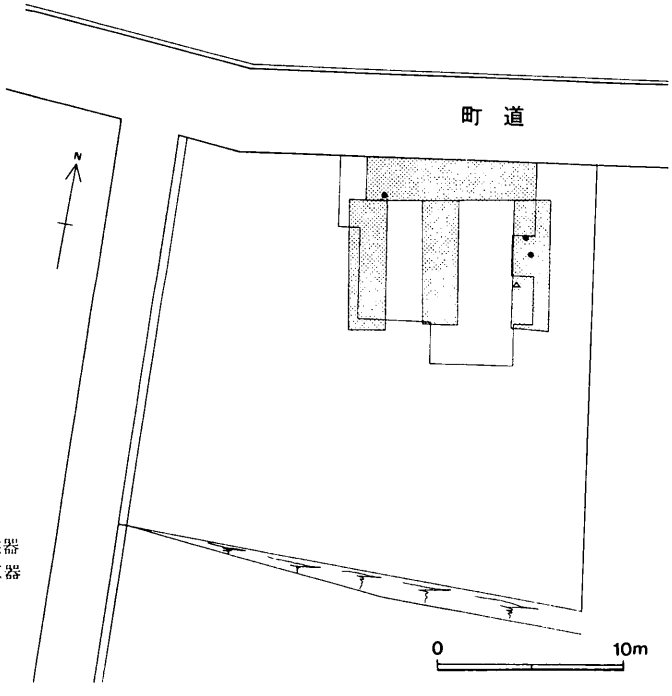


図13　上ノ原遺跡（第４次）の石器の分布





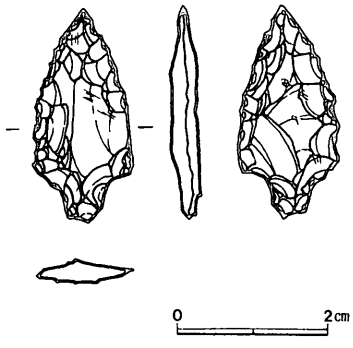


図14　一里塚遺跡の調査位置・グリッド・表採でえられた有茎尖頭器

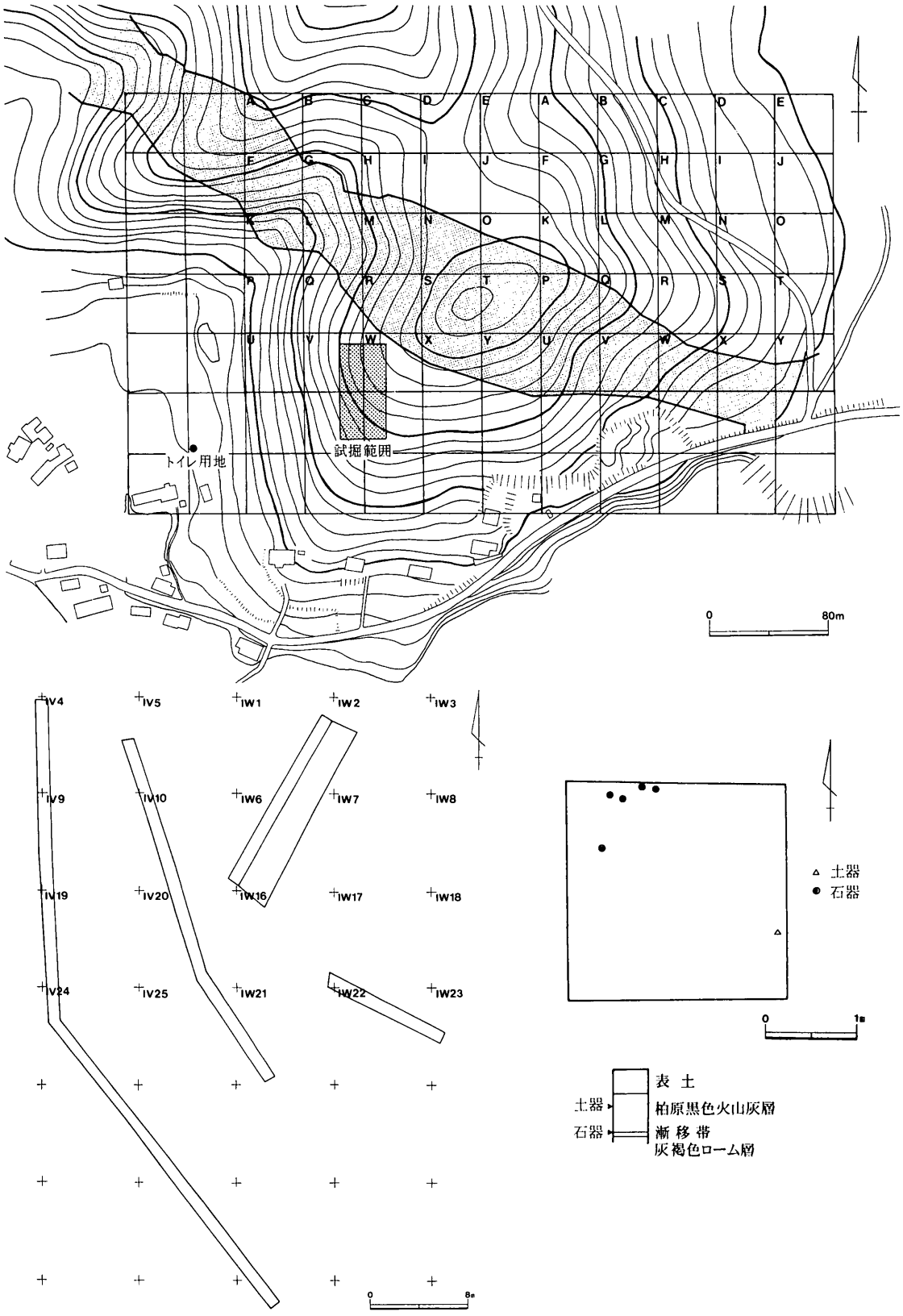


図15　裏の山遺跡の調査位置・グリッド・地層

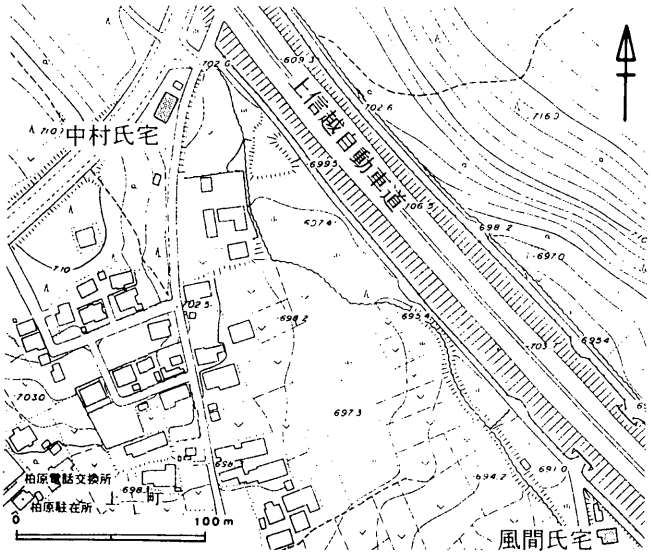
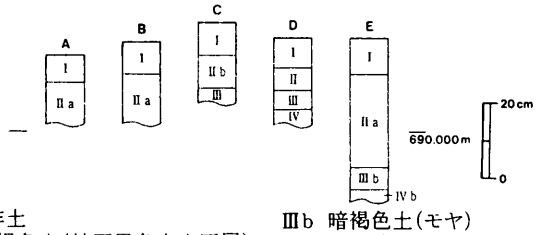


図16　東裏遺跡の調査地の位置



Ⅰ　耕作土
Ⅱa　黒褐色土(柏原黒色火山灰層)
　　粘性なし、しまりあり
Ⅱb　暗褐色土(柏原黒色火山灰層)
　　粘性なし、しまりあり
Ⅲa　暗黄褐色土(モヤ)
　　粘性あり、しまりあり
Ⅲb　暗褐色土(モヤ)
　　粘性強い、しまりあり
Ⅳa　暗黄褐色土(黄褐色ローム)
　　粘性あり、しまりあり
Ⅳb　黄褐色土(黄褐色ローム)
　　粘性強い、しまりあり

図18　東裏遺跡（風間氏宅地点）の土層柱状図

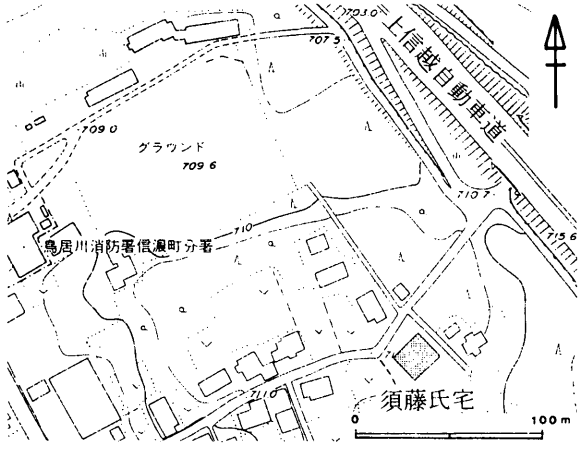
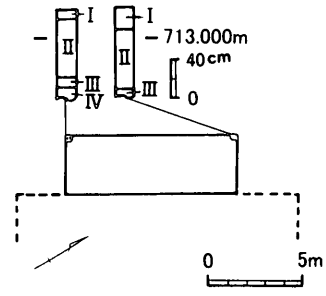


図20　上ノ原遺跡（須藤氏宅地点）の調査地の位置



Ⅰ　表土・客土
Ⅱ　黒褐色土(柏原黒色火山灰層)
　　粘性なし、しまりあり
Ⅲ　暗褐色土
　　粘性なし、しまりあり
Ⅳ　暗黄褐色粘質土
　　粘性あり、しまりあり

図17　東裏遺跡（中村氏宅地点）の土層柱状図

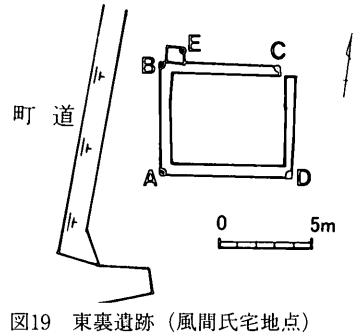


図19　東裏遺跡（風間氏宅地点）の調査範囲と柱状図の位置

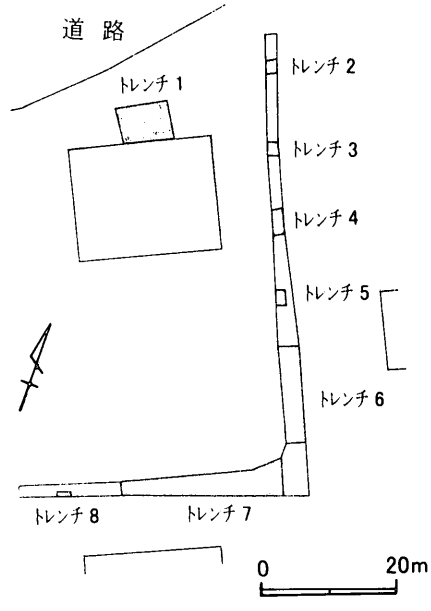


図21　上ノ原遺跡（須藤氏宅地点）の試掘トレンチの位置

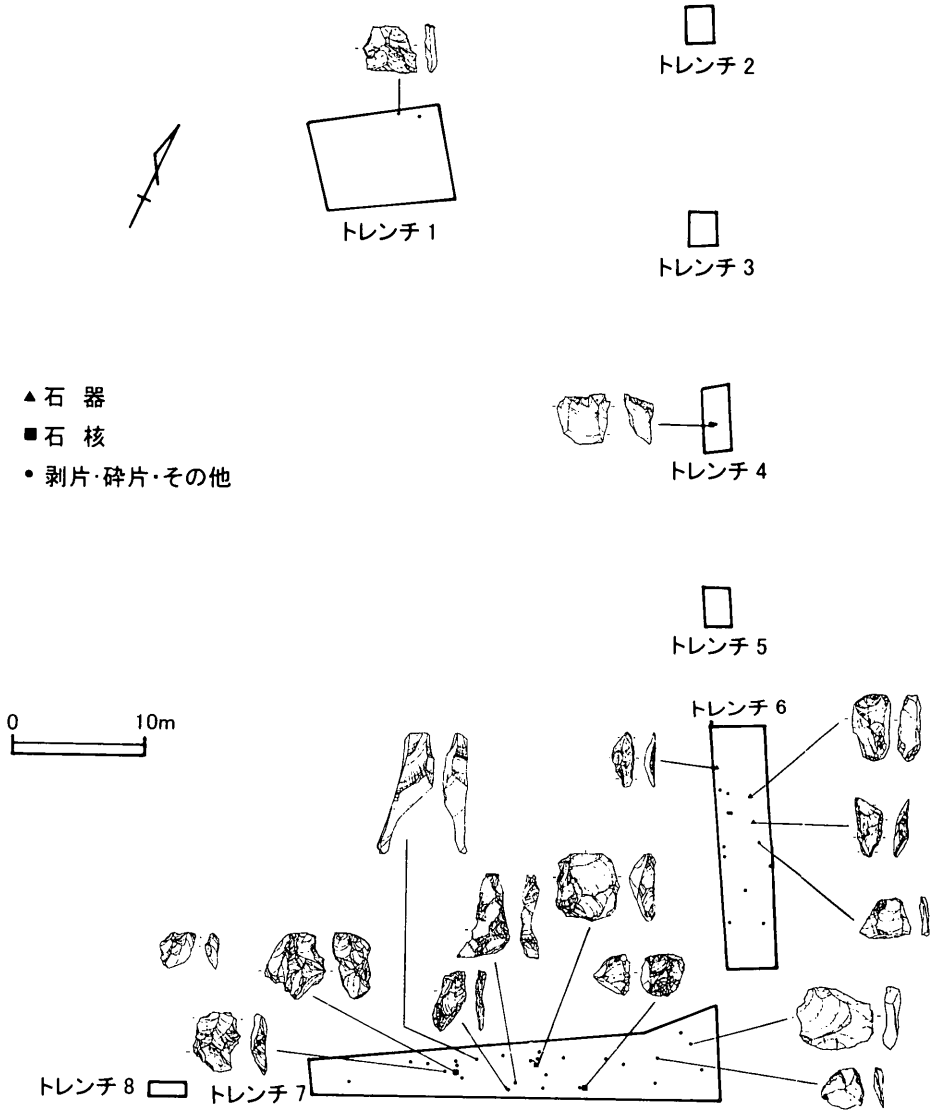


図22　上ノ原遺跡（須藤氏宅地点）の土層柱状図

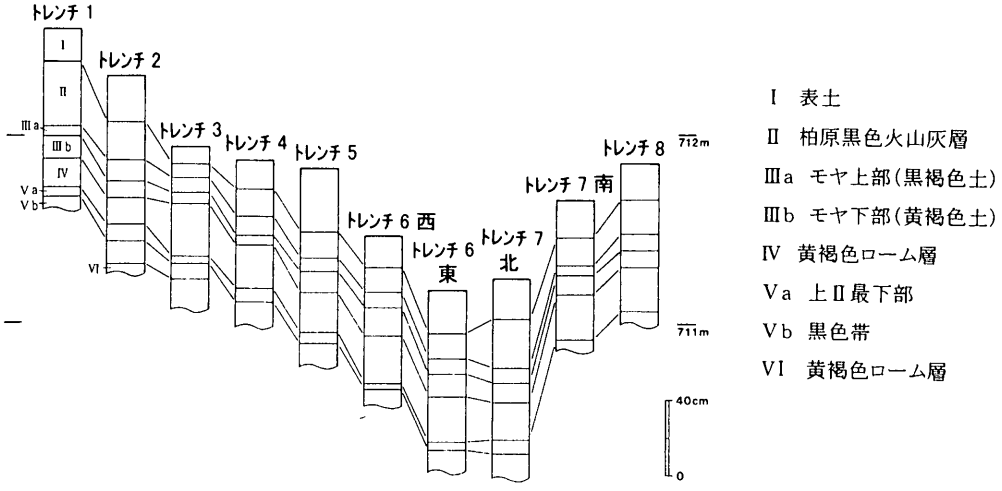


図23　上ノ原遺跡（須藤氏宅地点）の土層柱状図

図24　上ノ原遺跡（須藤氏宅地点）の主な出土遺物

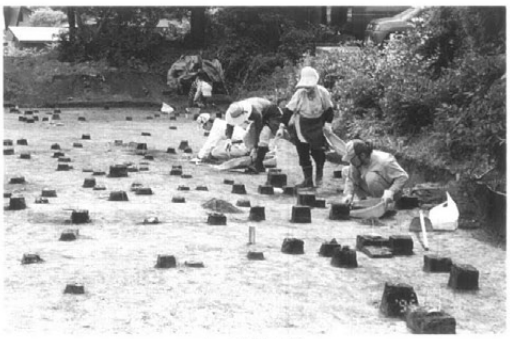
表6　上ノ原遺跡（須藤氏宅地点）の主な出土遺物一覧

図番号	遺物番号	器種名	石　材	出土層位	標高(m)	図番号	遺物番号	器種名	石　材	出土層位	標高(m)
1	トレ6- 7	ナイフ形石器	珪質頁岩	Vb	710.58	9	トレ6- 8	剥　片	チャート	Va	710.56
2	トレ6- 1	ナイフ形石器	チャート	Vb	710.65	10	トレ7-24	剥　片	チャート	Va	710.79
3	トレ7-13	楔形石器	珪質凝灰岩	Vb	710.58	11	トレ1- 1	剥　片	無斑晶質安山岩	IIIa	712.02
4	トレ6- 4	楔形石器	凝灰岩	Vb	710.56	12	トレ7- 4	剥　片	黒曜石	撹乱	710.76
5	トレ7-17	二次加工のある剥片	チャート	撹乱	710.71	13	トレ7-26	剥　片	黒曜石	Va	710.85
6	トレ7-20	スポール	黒曜石	Va	710.61	14	トレ4- 1	石　核	チャート	Vb	711.04
7	トレ7-18	剥　片	チャート	撹乱	711.04	15	トレ7- 8	石　核	チャート	IIIb	710.88
8	トレ7- 2	剥　片	チャート	Vb	710.34	16	トレ7-22	石　核	珪質頁岩	IV	710.86

写真図版１：　上ノ原遺跡（４次）

１　上ノ原遺跡の発掘風景　（東側より）

２　発掘風景　試掘トレンチ



３　発掘風景

４　遺物の測量・記録

５　遺物出土状況　（東側より）

写真図版２：　上ノ原遺跡（４次）

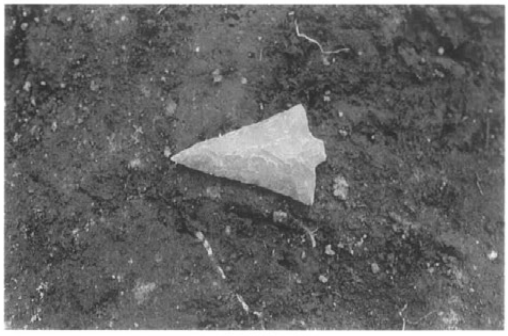
1　礫群、遺物の出土状況

2　遺物の出土状況

3　発掘地西部

4　試掘調査

5　尖頭器

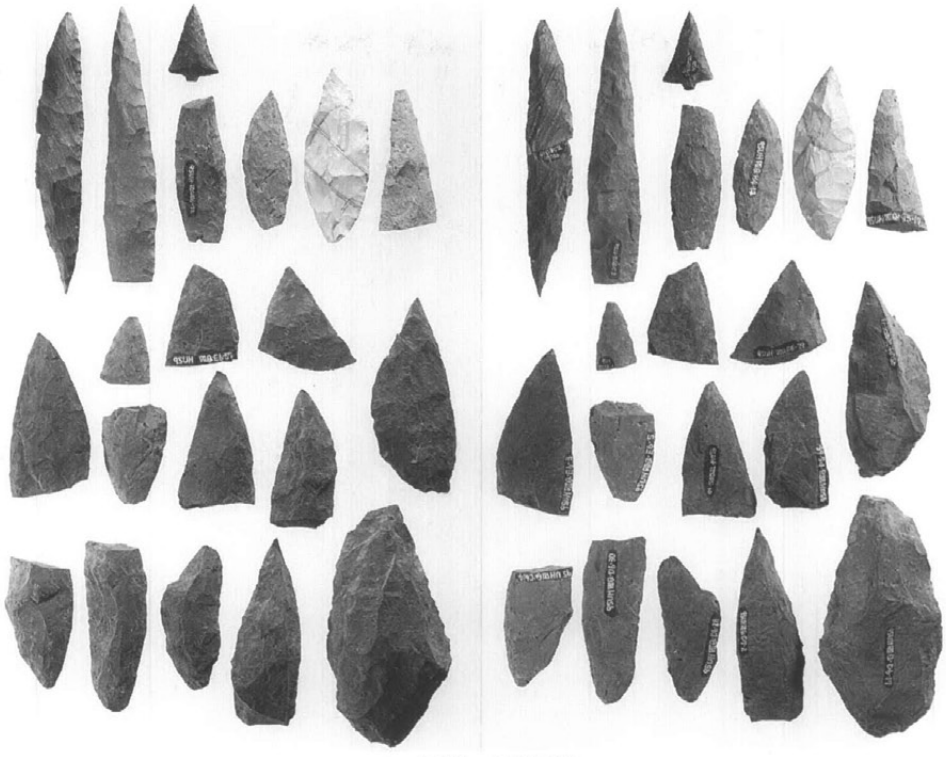


6　有茎尖頭器

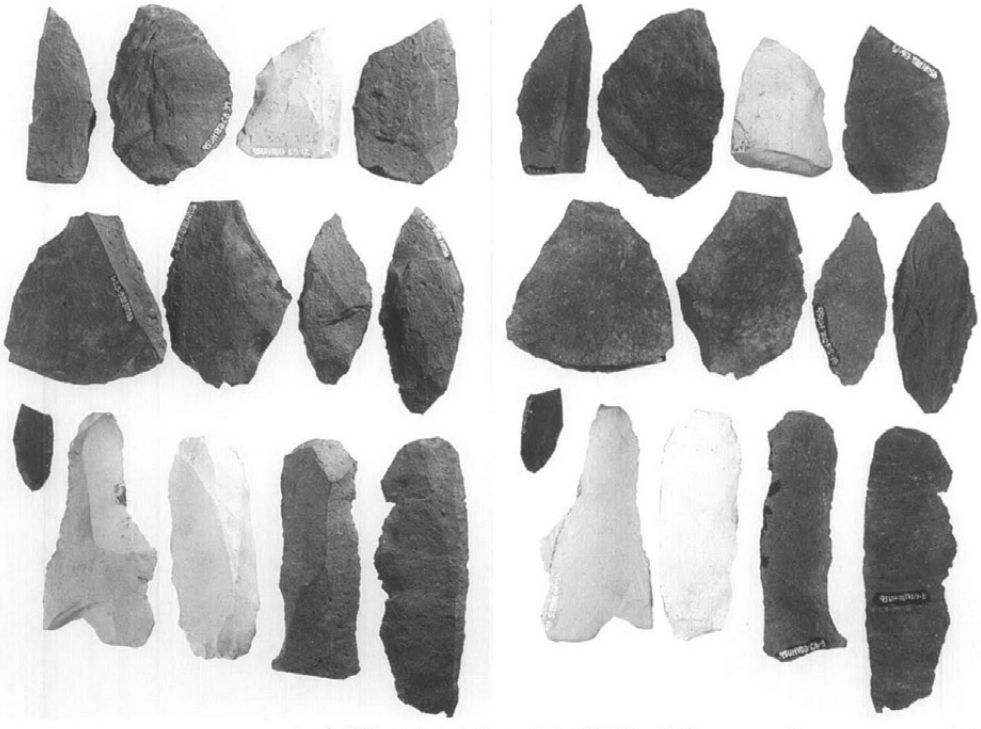
7　尖頭器

8　尖頭器

写真図版３：　上ノ原遺跡



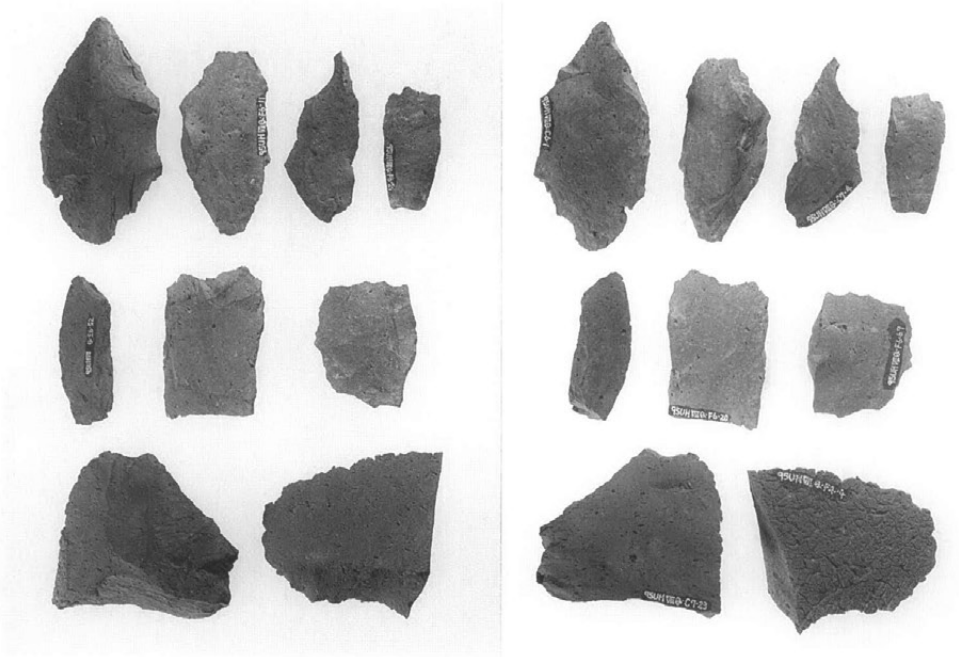
1　尖頭器・有茎尖頭器



2　尖頭器・スクレイパー・ナイフ形石器・石刃

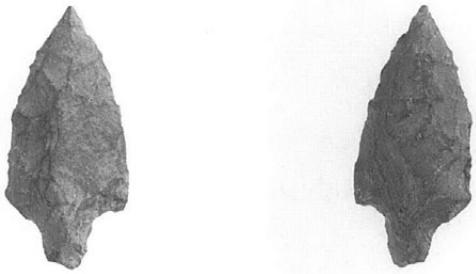
0　5cm

写真図版 4：　上ノ原遺跡・一里塚遺跡



1　横長剥片・石核

0　5cm



2　一里塚遺跡：有茎尖頭器　0　1 cm

写真図版５：　一里塚遺跡・裏の山遺跡

1　一里塚遺跡、試掘調査

2　一里塚遺跡、発掘風景

3　一里塚遺跡の地質

4　一里塚遺跡の全景

5　裏の山遺跡　全景

6　裏の山遺跡、試掘調査

7　裏の山遺跡、遺物の出土状況

8　裏の山遺跡、調査風景

写真図版6：　上ノ原遺跡

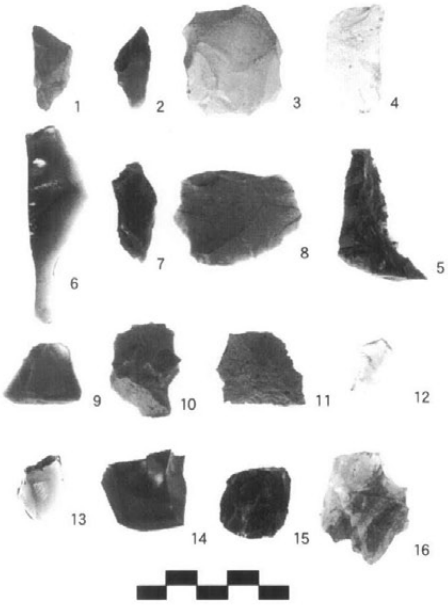
1　トレンチ7の遺物の出土状況

2　トレンチ6の遺物の出土状況①

3　ナイフ形石器の
出土状況

4　楔形石器の
出土状況

5　トレンチ6の遺物の出土状況②



6　出土石器（表）

7　出土石器（裏）

報 告 書 抄 録

書　　名	上ノ原遺跡（4次）ほか発掘調査報告書
副 書 名	－尖頭器文化の遺跡－
シリーズ名	信濃町の埋蔵文化財
シリーズ番号	
編著者名	中村　由克　・　渡辺　哲也
編集機関	信濃町教育委員会
所　在　地	〒389-13　長野県上水内郡信濃町柏原428-2　TEL 026-255-5923
発行年月日	1996年3月19日

ふりがな 所収遺跡名	所　在　地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
うえのはら 上ノ原遺跡	長野県上水内郡信濃町 大字柏原字毛無	205834	65	36度 48分 19秒	138度 12分 01秒	19960605～ 19960817	500	個人住宅 兼店舗
いちりづか 一里塚遺跡	長野県上水内郡信濃町 大字古間字一里塚	205834	86	36度 49分 39秒	138度 12分 48秒	19960707～ 19960722	66	個人住宅
うらのやま 裏ノ山遺跡	長野県上水内郡信濃町 大字柏原字裏ノ山	205834	71	36度 48分 11秒	138度 12分 48秒	19960817～ 19960906	5,500	スキー場開発 （試掘調査）
ひがしうら 東 裏遺跡	長野県上水内郡信濃町 大字柏原字東裏	205834	70	36度 48分 21秒	138度 12分 30秒	19960807～ 19960809	30	個人住宅
ひがしうら 東 裏遺跡	長野県上水内郡信濃町 大字柏原字東裏	205834	70	36度 48分 21秒	138度 12分 30秒	19960823～ 19960828	66	個人住宅
うえのはら 上ノ原遺跡	長野県上水内郡信濃町 大字柏原字上ノ原	205834	65	36度 48分 45秒	138度 12分 11秒	19960818～ 19960929	150	個人住宅

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主　な　遺　物	特　記　事　項
上ノ原遺跡	散布地	旧石器時代 縄文時代	礫群　1基	総出土数　513点 石器　354点 尖頭器、ナイフ形石器など	縄文草創期の尖頭器石器群がまとまって出土した。
一里塚遺跡	散布地	縄文時代 平安時代	なし	総出土数　4点	なし
裏ノ山遺跡	散布地	縄文時代 平安時代	なし	総出土数　6点	なし
上ノ原遺跡	散布地	旧石器時代 縄文時代		総出土数　47点 ナイフ形石器、楔形石器など	後期旧石器時代前半のナイフ形石器を中心とする石器群が出土した。
東裏遺跡	散布地	縄文時代 平安時代	なし	総出土数　22点 縄文土器　3点など	なし

表紙写真

尖頭器と有茎尖頭器
左端の石器の大きさ89㎜
縄文時代草創期

信濃町の埋蔵文化財

上ノ原遺跡（4次）ほか発掘調査報告書
―尖頭器文化の遺跡―

編集・発行　信濃町教育委員会
長野県上水内郡信濃町柏原428－2

発行日　1996年3月19日

印　刷　信毎書籍印刷株式会社

【この報告書について連絡先】
野尻湖ナウマンゾウ博物館
〒389－13　長野県上水内郡信濃町野尻287－5
TEL　026(258)2090
FAX　026(258)3551

Uenohara Site (4th Excavation)
Archaeological Reports of Shinano-machi
1996
Shinano-machi Board of Education,
Kamiminochi-gun, Nagano, 389-1305 Japan.